

土浦平和の会

ニュースNo. 80-2 1999年 8月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL 831-9122

<http://heiwatutiura.web.fc2.com/>

私の戦争体験と平和運動 その2

寺島美南子

リュック一つで引き上げてきた私達でしたので売るものとして生活力のない母では親戚にたよる他なく、父が帰ってくるまでそれはそれは肩身の狭い思いをしました。その上、排他的な土地柄で疎開者や帰国者には冷たい社会でした。父は復員してからもしばらく定職にありつけず、相変わらず私達一家の生活苦が続きました。父の実家は菊間町の十三代続いた庄屋の家柄でしたので、父はそれ相応の財産をもらえると期待していたようですが、たった一人の兄が死んでからは私達に対する扱いは非常に冷淡なものでした。幼心にも貧乏は本当にいやだと思ったものです。間もなく、父の勤めの都合から愛知県の安城市に移り住みました。私達の生活に多少のゆとりが出来た後も、母はいつまでも親戚の冷たい仕打ちを恨んでいました。それ以来、父の親戚とは誰かのお葬式の時に会うだけの仲となってしまう、ほとんどつき合いはありません。

今年のお正月に私と夫と二人の子供達とで広州へ行ってきました。私達は珠江のほとりの愛群大という広州一の高級ホテルの近くに住んでいましたので、それらしき場所を訪ねてみました。愛群大 はみるかげもなくおんぼろになり、まだ営業していました。暗い鉛色をした珠江には大きな近代的な橋がかかっており、私の記憶にある珠江ではありませんでした。私の記憶にある珠江は黄色い泥の河で小さな船が沢山岸边につながれ、そこは水上生活者達で賑わっていました。お正月に見た珠江、愛群、市場などは私の記憶にある広州ではありませんでした。もう、五十年以上もたっているのだからすっかり変わってしまったのでしょうか。母にはもう少し長生きしてもらい一緒に行きたかったと思います。そうすれば、昔はどうであったか聞けたでしょうに。残念でなりません。

私は今年始めて新婦人の平和専門部を担当することになり、戦争法反対、君が代、日の丸法制化反対運動を通じて否応なしに平和の問題に直面させられています。今まで平和問題を避けてきたわけではありません。私は根っからのノンポリで、ただ漫然と毎年母親大会の平和分科会に出席してきました。あまりまじめでない私の目にも最近の平和運動が曲がり角にきているようにみえます。だいぶ前は土浦大会でも涙ながらに自分の戦争体験を語ってくれる人々がいて、私達の胸に反戦の熱い思いがひしひしと伝わってきたものです。しかし、最近ではこれらの方々が出ていっしょになくなりました。戦争の語り部達がめっきり少なくなり、今では、私達の年代が戦争の幼児体験を持っているくらいです。五十代の半ば以下の人達は戦争を知りません。戦争で受けた傷跡の痛みと戦争反対の熱い思いが段々とうすらいでいくようです。ほとんど戦争を知らない人達に平和運動をどのように広げ、どのように進めて行ったらいいのか、今問われているように思います。今年の母親大会の分科会ではこのような問題が提起されました。難しい問題ですが、みんなと一緒に知恵を出し合い行動していきたいと考えています

